

## 第二期 倫理部会 第11回会合 議事メモ

日時:2020年12月5日 13:30～

手法:ZOOM

- ・現状システムの問題点を整理し、そのシステムの変更と、それを支える価値について述べるということで前回了解された
- ・それはいいが、何故これまでも提案したことが受け入れられないのか、日本人の思考方法の点からも探求して訴えていくのはどうか
- ・日本人という人間集団の自然観、生命観など特有の人間性は、地理的条件や風土・気候などにも影響されている  
←この点については、既にいろいろな研究があり、環境文明としても過去に倫理部会で議論している。小林節子さんが中村元の「日本人の思惟方法」について解説するなど。(事務局)
- ・何故環境倫理が必要か、事業者、消費者、若者、教育者など対象を絞って、具体的に議論した方がいいのではないか。環境力大賞の様に。
- ・今までの倫理は西洋起源ものが多かったが、それが破綻してきている
- ・環境文明では、日本の持続性の知恵として、既に報告書や本にもしている。そうしたものを活用したい
- ・奈良を散策しているが、500年1000年前のものが残っていて、私たちを感動させている。そうしたものが今、私たちに残せるだろうかと疑問に思っている。価値観のしっかりしたものは残せる、という判断基準で考えていくようにしている
- ・見える形あるものは難しいので、考え方を示す
- ・昨日の環境文明塾で政治教育の重要性が指摘されていたが、有権者の環境倫理と併せて、政治家の環境倫理が必要ではないか
- ・Good News という形で伝えていく
- ・対象者ごとに伝えていくのは、行動のポイントが見えやすいのでいいのではないかと。ただし、例えば「消費」という行動面で示すのか、「消費者」という人で示すのかは議論した方がいい
- ・環境力大賞も経営者としての理想像があって12項目が定められたと思うので、そこには、新しい社会像なり理想像を押さえておくことが必要
- ・教育という点では、例えば水俣は学校ISO、旅館ISOなど仕組みで回していくことで、行動変容を促してきた。行動規範が身についた。倫理も大切だが、仕組みとして回していくことも大切
- ・A氏の提案も、とても無理のように思えるが、例えば企業がSDGSを本気で頑張ると、社会的企業になって行けば、いまのような株式会社は異なるものになるのではないかと

- ・システムを変える、法律を変えるというのはなかなか困難だが、その方向性を示す、変えるための行動様式をかえることが示されればいいのではないか
  - ・日野市では地域内の循環を促す為に、地元の中小を支えるために地元で買い物することを推奨している。まさに地産地消で Amazon での買い物とは違う行動を促そうとしている
  - ・地方議員などにも入ってもらって、議員環境力大賞の項目づくりのようなことができると面白い
- いろんな人を巻き込んでいくことも大切

【対象者】 例えば、消費者

**システム** 例：地産地消の仕組みを作る、地域通貨、地方税の拡大 etc



**(環境) 倫理** 例：お隣さんとの繋がりを大切にする

(事務局)この部分には、これまでの環境文明 21 の成果を、対象者毎に書き換える  
+ 足りないものを足す(コロナを経験して)

例えば、「日本の持続性の知恵」

- (1) モノへの執着より精神的な豊かさや心の平安を重視していた
- (2) 自然と同化し、自然との共生の精神を基盤にしていた
- (3) 足るを知る、自足の心を持っていた
- (4) 輪廻、循環思想が根付いていた
- (5) 調和を大切にし、家や地域などの集団の存続を重視していた
- (6) 精神の自由を尊ぶ気風があった
- (7) 先祖崇拝や先人を大切にする事で命や暮らしをつないでいた
- (8) 教育の価値を認め、次世代を愛し育てることに熱心だった

例えば、「生き残りへの戦略」：共生、互助・利他、ほどほど、中庸、知足、理に沿う  
持続性、豊かな人間性、有限性 etc

